

2020年度 第2四半期決算
決算説明会資料

2020年11月5日



目次

■ A. 2020年度第2四半期決算概要

- A-1 : 2020年度第2四半期業績
- A-2 : セグメント別第2四半期業績

■ B. 2020年度通期業績予想と取組み

- B-1 : 2020年度通期業績予想及び変動要素
- B-2～3 : セグメント別通期業績予想
- B-4 : 足元での課題の進捗状況
- B-5 : 新型コロナウイルス感染症対応とその進捗

■ Appendix. インデックス等指標一覧

(市況・積高実績/前提、エクスポージャー比率)

A. 2020年度 第2四半期決算概要

A-1 : 2020年度第2四半期業績

■ 連結 第2四半期決算概要

(億円)

売上高及び段階損益	2020年度			前年同期比		1Q公表比		2020/9/24開示比	
	1Q実績	2Q実績	上期実績	上期前年実績	増減額	上期公表	増減額	9/24開示上期	増減額
売上高	1,522	1,479	3,001	3,724	△723	3,090	△89	3,090	△89
営業損益	△66	△36	△102	111	△213	△110	8	△110	8
経常損益	△10	110	100	134	△34	△55	155	80	20
親会社株主に帰属する 当期純損益	△10	106	96	163	△67	△35	131	80	16
為替レート(/\$)	¥107.74	¥105.90	¥106.82	¥109.18	△¥2.36	¥107.50	△¥0.68		
燃料油価格(/MT)	\$377	\$331	\$353	\$440	△\$87	\$355	△\$1		

■ 主な財務指標

(億円)

指標	2020年度2Q	2019年度末	増減額
自己資本	1,067	1,011	56
有利子負債	5,780	5,435	345
現金及び現金同等物期 末残高	1,508	1,119	389
DER	542%	538%	4ポイント
NET DER	398%	423%	△25ポイント
自己資本比率	12%(*)	11%	1ポイント

*格付機関から資本性評価50%を取得している劣後ローンを加味した場合、自己資本比率は16%相当

■ 主な変動要素

- ▶ 新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)拡大による輸送量の減少等により、修正開示(9月24日)比で減収となるも営業損益、経常損益、当期純損益ともに改善。前年同期比では減収減益

A-2 : セグメント別第2四半期業績

■ セグメント別 第2四半期決算概要

(億円)

セグメント (上段：売上高) (下段：経常損益)	2020年度			前年同期比		1Q公表比	
	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	上期 前年実績	増減額	上期 公表	増減額
ドライバルク	452	428	880	1,163	△ 283	950	△ 70
	△ 44	△ 49	△ 93	2	△ 95	△ 65	△ 27
エネルギー資源	192	185	378	438	△ 61	385	△ 7
	16	18	34	46	△ 12	30	4
製品物流	814	803	1,617	1,949	△ 332	1,630	△ 12
	30	157	187	105	83	10	177
うち、コンテナ船事業	108	105	213	493	△ 280	220	△ 7
	51	165	215	36	179	70	145
その他	63	62	125	173	△ 48	125	-
	2	5	6	7	△ 0	0	6
本部・調整	-	-	-	-	-	-	-
	△ 14	△ 21	△ 35	△ 26	△ 10	△ 30	△ 5
合計	1,522	1,479	3,001	3,724	△ 723	3,090	△ 89
	△ 10	110	100	134	△ 34	△ 55	154

(USD)

船型別市況		2020年度	前年同期比	
		上期 実績	2019年度 上期実績	増減額
ドライ バルク	CAPE	\$15,500	\$20,400	△\$4,900
	PANAMAX	\$9,000	\$12,800	△\$3,800
	HANDYMAX	\$7,800	\$10,250	△\$2,450
	SMALL HANDY	\$5,250	\$7,300	△\$2,050
油槽船	VLCC	\$63,800	\$20,800	+\$43,000
	AFRAMAX	\$18,000	\$11,300	+\$6,700

■ 主な変動要素

▶ ドライバルク

大型船、中・小型船ともに市況は2Qに入り回復基調で推移したものの、コロナ禍影響による1Qの市況低迷の影響が2Q完了の航海にも及んだことにより、前年同期比で減収となり損失を計上

▶ エネルギー資源

油槽船・電力炭船・LNG船全般に安定的に稼働した一方でオフショア支援船の市況は油価下落の影響等により回復せず、前年同期比で減収減益

▶ 製品物流

自動車船事業では、大幅な荷量減の影響により苦戦するも、想定より早い回復で1Q公表比では改善

コンテナ船事業は荷動きに応じた機動的な配船やコスト削減等の取組みに加え堅調に推移した運賃市況によりONE社の損益が大幅改善

セグメント全体では前年同期比で減収となるも増益

B. 2020年度 通期業績予想と取組み

B-1 : 2020年度通期業績予想及び変動要素

■ 連結 通期業績予想

売上高及び段階損益	2020年度					2019年度		前年同期比		1Q公表		1Q公表比	
	1Q実績	2Q実績	上期実績	下期予想	通期予想	上期実績	通期実績	上期増減額	通期増減額	上期公表	通期公表	上期増減額	通期増減額
売上高	1,522	1,479	3,001	2,899	5,900	3,724	7,353	△ 723	△ 1,452	3,090	6,000	△ 89	△ 100
営業損益	△ 66	△ 36	△ 102	△ 148	△ 250	111	68	△ 213	△ 319	△ 110	△ 270	8	20
経常損益	△ 10	110	100	△ 100	0	134	74	△ 34	△ 74	△ 55	△ 280	155	280
親会社株主に帰属する 当期純損益	△ 10	106	96	103	200	163	53	△ 67	147	△ 35	0	131	200
為替レート(/\$)	¥107.74	¥105.90	¥106.82	¥105.13	¥105.98	¥109.18	¥109.13	△¥2.36	△¥3.15	¥107.50	¥107.25	△¥0.67	△¥1.27
燃料油価格(/MT)	\$377	\$331	\$353	\$371	\$362	\$440	\$467	△\$87	△\$105	\$355	\$368	△\$3	△\$7

(億円)

■ 通期業績 主な変動ポイント

- ▶ COVID-19拡大の影響により厳しい事業環境が継続するが、下期を通じて世界の経済活動は徐々に回復を見込む
- ▶ ただし、欧州等を中心とする感染再拡大等の影響については要注視
- ▶ 通期の売上高は5,900億円とほぼ1Q公表並、通期営業利益は△250億円と1Q公表比20億円の改善を見込む
- ▶ 通期の経常利益は±0億円（1Q公表比280億円改善）、当期純損益では200億円の黒字（1Q公表比200億円改善）を見込む

■ 前提

- ▶ 為替レート ¥106/\$
- ▶ 燃料油価格 \$362/MT
- ▶ 市況前提 Appendixご参照

■ 変動影響(3Q~4Q 6か月間)

- ▶ 為替レート変動 1円変動 ±1.9億円
- ▶ 燃料油価格変動 10ドル変動 ±0.1億円

■ 配当

財務体質の改善を喫緊の課題と捉え収益の改善に向け取り組んでまいります。中間配当に関しては無配、期末配当予想につきましては現時点では未定とさせていただきます。

B-2 : セグメント別通期業績予想

■ セグメント別 通期業績予想

(億円)

セグメント (上段：売上高) (下段：経常損益)	2020年度					2019年度		前年同期比		1Q公表		1Q公表比	
	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	下期 予想	通期 予想	上期 実績	通期 実績	上期 増減額	通期 増減額	上期 公表	通期 公表	上期 増減額	通期 増減額
ドライバルク	452	428	880	909	1,790	1,163	2,338	△ 283	△ 548	950	1,790	△ 70	-
	△ 44	△ 49	△ 93	23	△ 70	2	41	△ 95	△ 111	△ 65	△ 60	△ 27	△ 10
エネルギー資源	192	185	378	402	780	438	847	△ 61	△ 67	385	780	△ 7	-
	16	18	34	△ 29	5	46	99	△ 12	△ 94	30	40	4	△ 35
製品物流	814	803	1,617	1,463	3,080	1,949	3,845	△ 332	△ 765	1,630	3,150	△ 12	△ 70
	30	157	187	△ 72	115	105	△ 29	83	145	10	△ 215	177	330
うち、コンテナ船事業	108	105	213	207	420	493	1,020	△ 280	△ 600	220	440	△ 7	△ 20
	51	165	215	△ 55	160	36	△ 104	179	265	70	△ 125	145	286
その他	63	62	125	125	250	173	323	△ 48	△ 73	125	280	-	△ 30
	2	5	6	3	10	7	17	△ 0	△ 8	0	5	6	5
本部・調整	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	△ 14	△ 21	△ 35	△ 24	△ 60	△ 26	△ 54	△ 10	△ 6	△ 30	△ 50	△ 5	△ 10
合計	1,522	1,479	3,001	2,899	5,900	3,724	7,353	△ 723	△ 1,453	3,090	6,000	△ 89	△ 100
	△ 10	110	100	△ 100	0	134	74	△ 34	△ 74	△ 55	△ 280	154	280

■ セグメント別 主な変動ポイント

▶ ドライバルク

各国の経済刺激策により原材料を中心とした海上輸送における需給環境にも復調の兆しが見られるが本格的な回復には今しばらく時間を要する見込み
市況は、船腹供給圧力の低下から大型船を中心に次第に回復するものと予想する

▶ エネルギー資源

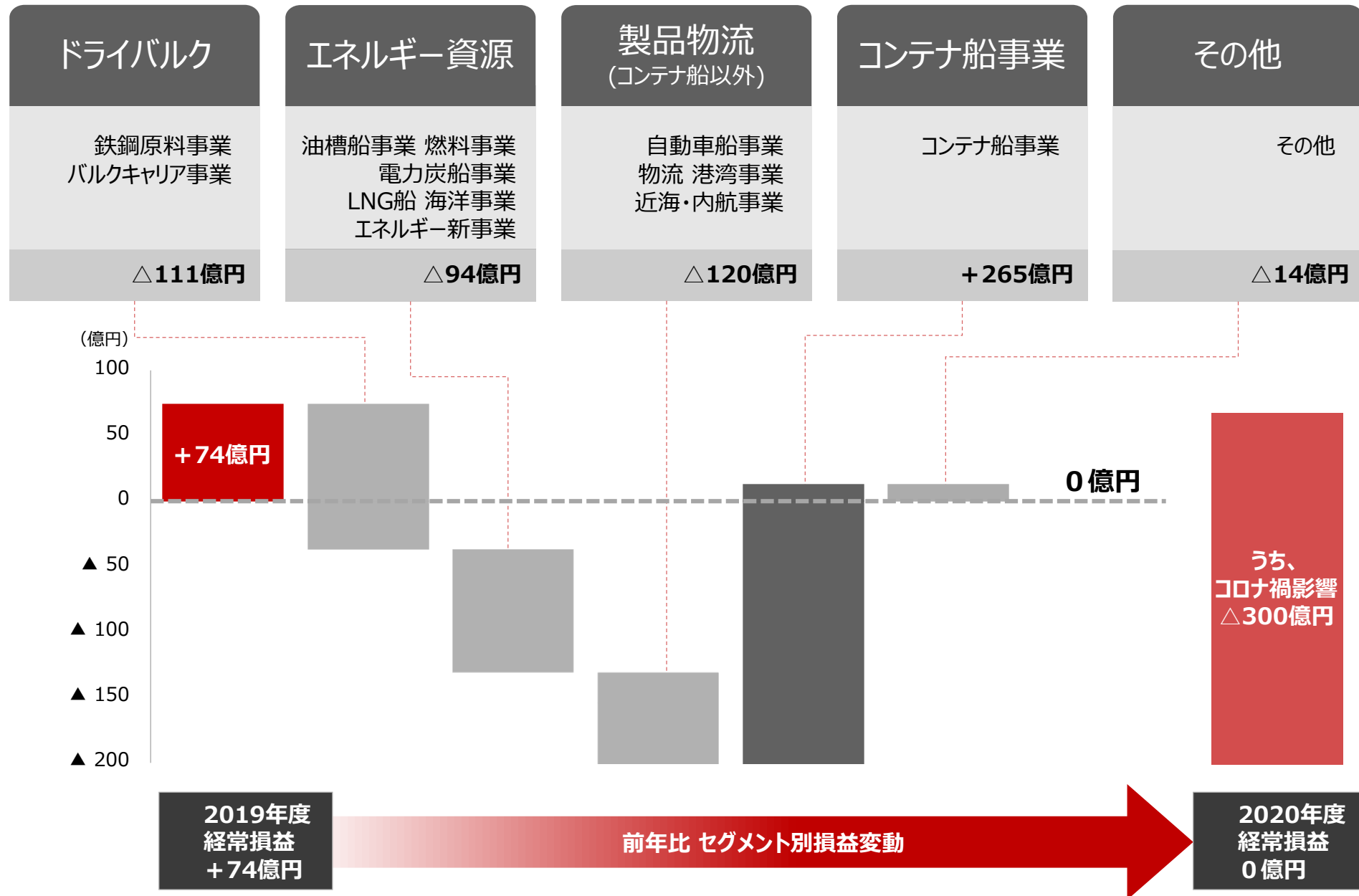
VLCC(大型原油船)、LPG船、電力炭船及びLNG船において、中長期の期間備船契約のもとで安定収益の確保を見込む
オフショア支援船事業においては、引き続きコスト削減等により収支の改善に努める
ドリルシップ事業は油価低迷により一過性の損益悪化を見込む

▶ 製品物流

自動車船事業の荷量は下期に向け回復傾向ではあるものの一定の影響は残る
物流事業は需要の回復とeコマース関連の荷動きを取り込むことで収支改善を目指す
コンテナ船市況は需要の回復もあり安定を維持するが季節要因もあり上期に比べ悪化

B-3 : セグメント別通期業績予想

■ 前年比経常損益とセグメント別損益変動



B-4：足元での課題の進捗状況

■ 船隊の適正化

- ▶ 備船の返船や老齢船を中心とした所有船の処分を積極的に進め、当初の予定どおりドライバルクと自動車船を中心に20隻以上の返船、売船を進捗
- ▶ 需要の動向を見極め機動的な減速・減便や停船により引き続き運航費を削減

■ 流動性の確保

- ▶ 資金調達による流動性確保は予定どおり進捗
- ▶ 売上3か月分の手元現預金を確保

■ 自己資本の拡充

- ▶ 海外ターミナル等の資産売却は予定どおり進捗
- ▶ 安定収益の積み上げへの取組みを継続

■ 具体的取組みと進捗管理の徹底

B-5 : 新型コロナウイルス感染症対応とその進捗

グローバルな物流インフラとして安全・高品質な船舶運航、輸送サービスを提供

対応と進捗

海上

■ 船内の安全確保と安全運航維持のための措置

- ▶ 乗船前の体調管理、PCR検査等の徹底
- ▶ 必要物資の供給（防護服等）
- ▶ 円滑な乗組員交代へ向けた対応（関係国への働きかけ、交代のための離路等）
- ▶ 乗組員への福利厚生強化
- ▶ 船主へのサポート・連携（傭船の場合）

陸上

■ 全世界規模で通常業務を継続

- ▶ 全世界の各拠点での在宅勤務体制の確立と状況に応じた機動的な対応
- ▶ 本社でも4割の在宅勤務体制継続、飛沫感染防止パネル設置等の職場環境の整備

| Appendix

市況実績・前提/エクスポージャー比率

■ ドライバルク市況実績・前提

バルク市況	2019年度					2020年度				
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	2Q実績	3Q予想	4Q予想	通期予想
CAPE	\$11,350	\$29,400	\$21,950	\$4,500	\$16,800	\$9,950	\$20,750	\$21,000	\$14,000	\$16,500
PANAMAX	\$9,500	\$16,050	\$11,550	\$5,700	\$10,700	\$6,050	\$11,750	\$12,500	\$8,500	\$9,750
HANDYMAX	\$8,200	\$12,300	\$10,600	\$6,550	\$9,400	\$5,500	\$9,950	\$11,000	\$8,000	\$8,650
SMALL HANDY	\$6,100	\$8,450	\$8,100	\$4,500	\$6,800	\$3,250	\$7,150	\$9,000	\$7,000	\$6,650

■ 油槽船市況実績・前提

油槽船市況 (WS)	2019年度					2020年度				
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	2Q実績	3Q予想	4Q予想	通期予想
VLCC	41	55	112	87	74	94	35	58	45	58
(中東/日本)	\$13,900	\$27,750	\$96,750	\$87,050	\$56,350	\$107,850	\$19,750	\$30,000	\$30,000	\$46,900
AFRAMAX	99	91	168	171	132	119	69	75	87	88
(南方/日本)	\$12,650	\$10,000	\$27,650	\$22,650	\$18,250	\$26,350	\$9,650	\$11,650	\$19,000	\$16,650

■ 期末運航隻数規模

船型	2018年度末	2019年度末	2020年度 9月末
CAPE	96	93	92
中・小型船	103	92	78
CHIP	10	10	8
合計	209	195	178

船型	2018年度末	2019年度末	2020年度 9月末
VLCC	8	6	6
LPG船	8	5	5
他油槽船	6	6	6
電力炭船	25	29	29
LNG船	48	47	47
合計	95	93	93

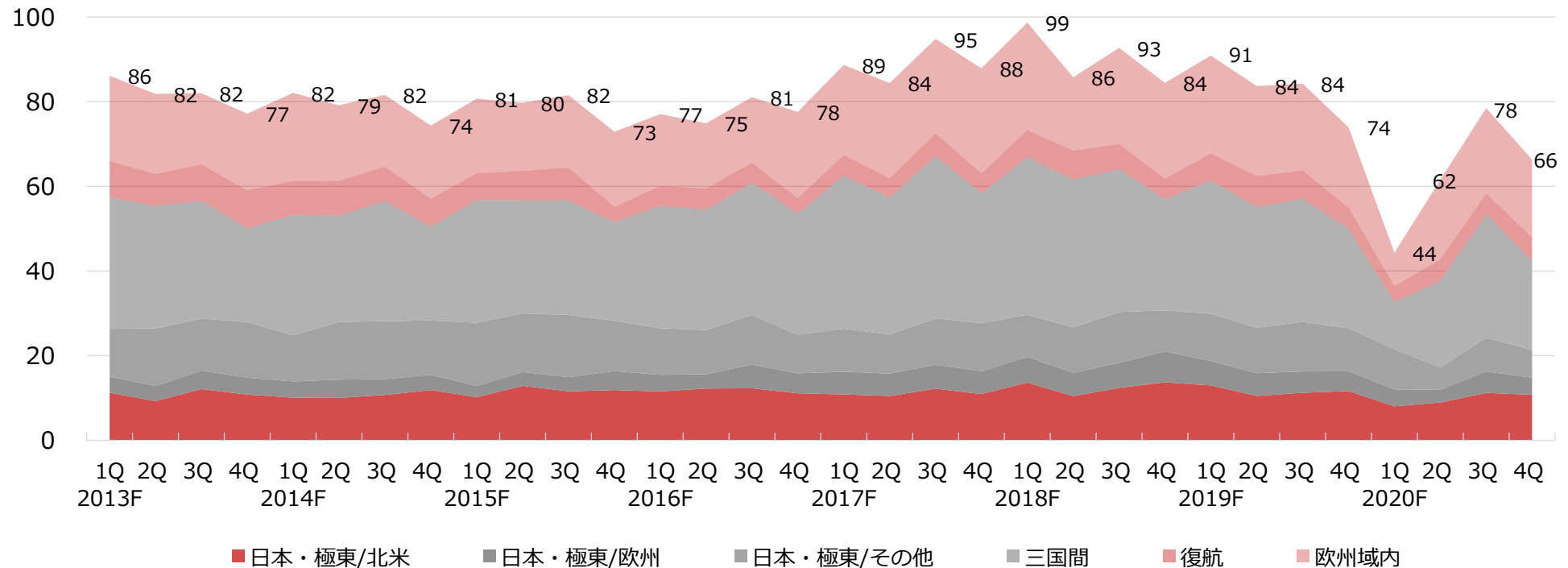
■ 2020年度：運航規模におけるエクスポージャー率

船型	エクスポージャー率
CAPE	13%
中・小型船	24%
CHIP	0%
VLCC	0%
LPG船	20%
他油槽船	67%
電力炭船	7%

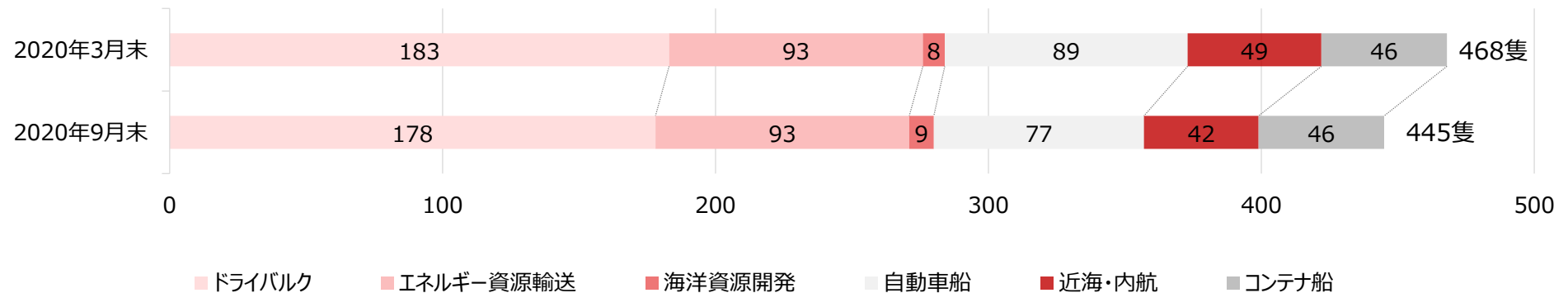
自動車船航路別積高実績・前提

輸送台数 (千台)	2019年度					2020年度				
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	2Q実績	3Q予想	4Q予想	通期予想
往航	299	266	280	265	1,109	215	172	242	214	843
復航	64	73	67	49	254	37	51	49	55	192
三国間	315	286	291	235	1,126	112	204	292	210	819
欧州域内	231	213	205	190	839	79	187	201	184	652
合計	909	837	843	739	3,328	443	615	785	663	2,506
船隊規模 (隻数)	85	86	84	85	85	84	76	73	70	70

(10,000 Units)



グループ船隊構成



船種	2020年9月末						2020年3月末	
	所有船		傭船		合計		合計	
	隻数	重量トン	隻数	重量トン	隻数	重量トン	隻数	重量トン
ドライバルク	58	7,133,680	120	16,308,620	178	23,442,300	183	23,930,307
電力炭船	7	615,656	22	1,976,544	29	2,592,200	29	2,595,392
LNG船	45	3,801,242	2	152,272	47	3,953,514	47	3,953,514
油槽船	12	1,769,681	5	776,868	17	2,546,549	17	2,546,549
オフショア支援船	6	29,186	0	-	6	29,186	6	29,186
海洋掘削船	1	-	0	-	1	-	1	-
FPSO	1	-	0	-	1	-	1	-
LNG燃料供給船	1	2,431	0	-	1	2,431	-	-
自動車船	34	461,138	43	795,479	77	1,256,617	89	1,464,163
近海・内航	24	188,191	18	225,133	42	413,324	49	564,927
コンテナ船	7	460,448	39	3,620,423	46	4,080,871	46	4,082,343
合計	196	14,461,653	249	23,855,339	445	38,316,992	468	39,166,381

* 所有船の隻数は共有船を含み、重量トン数は共有船の当該船舶における他社持分を含んでいます

* 基幹船隊に加え、期末時点の短期・スポット傭船を含んだ隻数となります

グループ運航船舶/新造船竣工予定

■ グループ運航船舶

セグメント	事業部門・船種	2020年度3月末	2020年度9月末
ドライバルク セグメント	CAPE SIZE	89	88
	OVER PANAMAX	4	4
	PANAMAX	42	40
	HANDYMAX	34	33
	SMALL HANDY	4	5
	CHIP	10	8
セグメント合計		183	178
エネルギー資源 セグメント	原油タンカー/VLCC	6	6
	原油タンカー/AFRAMAX	3	3
	ケミカル船	3	3
	LPG船	5	5
	合計	17	17
	LNG船	47	47
	電力炭船	29	29
	オフショア支援船	6	6
	海洋掘削船	1	1
	FPSO	1	1
	LNG燃料供給船	0	1
セグメント合計		101	102
製品物流 セグメント	7,000台型	15	13
	6,000台型	39	36
	5,000台型	14	11
	4,000台型	5	2
	3,000台型	5	4
	2,000台型	4	4
	2,000台型未満	7	7
	合計	89	77
	14,000TEU	12	12
	8,000TEU以上	13	13
	5,500TEU以上	7	7
	4,200TEU以上	7	7
	1,700TEU以上	7	7
	1,200TEU以上	0	0
合計	46	46	
近海・内航船	49	42	
セグメント合計		184	165
総合計		468	445

■ 新造船竣工予定（年度別）

竣工隻数	2020	2021	2022
CAPE SIZE	2	1	
OVER PANAMAX		2	
CHIP			1
LNG船			2
LNG燃料供給船	1		
PCC 7,000台型	1		
近海・内航船	1	1	
合計	5	4	3

【免責事項】

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的とし、当社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。投資に関する決定は、投資家ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

【見通しに関する注意事項】

本資料には将来についての予想や見通しが含まれておりますが、これらは当社が現時点で入手可能な情報に基づいており、経済動向、海運業界需給、燃料価格、為替相場等の動向により変動することをご了承下さい。

